

女性の社會參畫

赤谷慶子

大學に於て入學試験の採點に男女差別ありし事報道せられたり。毎日メディアは侃々諤々の議論にて賑やかなり。さは入學試験のみならず、官廳、企業等の試験にても同様にて、特に驚くべき事柄ならずと多くの女性は放念したるにあらずや。いかなる試験に於ても、高得點取るは女性故、上位を占めるは必須なり。入省や入社試験に於ては、例の問題になりし醫科大學の如きやり方ならずも、その後の二次試験や面接において、振り分けられてありと聞く。友人の女醫たちに聞けども、當然の事なりと思はるる回答殆どなりき。

女性のみ子供を産むこと可能にて、妊娠すればその期間必要に迫られ休暇取り、退職に追ひ込まれる例も屢々なり。而して、如今日本未だ法制未熟にして、退職餘儀なくせらるる事多し。我勤務したりし會社においても、入社試験の際にかなり振り分けられ、會社より留學せしむる場合も、女子社員に機會の與へらるるは稀なり。過去に女性を留學せしめたるに、彼の地にて結婚退職するありて、會社は膨大なる損失を蒙りたるの段有之、更に女性たちは避けらるるに至る。それがしもさる病氣にて手術のため、三週間の休暇を申請したるに、上司言ひけるは、かくも長き休暇を与ふるを得ず。戻り來たらんとも仕事はなかるべし、と。宜^うなるかな。競争激烈なる職場なるを思ひ、不得^{やむを得ずして}已通院にて治療するの儀となりき。今日ならばパワハラに該當するに相違なし。然れども當時は當たり前のごとく納得せしものなりき。

女性の眞の活躍を促さんと欲せば、まづは制度を整ふるに如かず。加へて、權利のみを主張する女性たちも散見され、「女性の敵は女性なり」といふ事も良く聞かる。結婚はしたれど、家庭を作る事を諦めたる女性たちも多かりきと思ふ。組織の中の女性教育も不完全なる現在、登用せられし女性たちの苦難は多々見受けられたり。遅々たる進歩はみらるるものの、道のりは險しくかつ遠しといふの外なし。

(平成三十年八月二十四日受附)